

令和 2 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ウエバヤシ シゲル
氏名 植 林 茂

研究期間 令和 2 年度

研究課題名 新型コロナ・ショックの銀行貸出への影響についての 2008 年世界金融危機時との比較 —東海地区への影響を中心に—

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	植林 茂	現代マネジメント学部	教 授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

COVID-19(新型コロナウイルス)の感染拡大は、観光、外食、運輸等や輸出入などの落ち込みを通じて経済に大きな影響を与えたが、こうした急激な落ち込みは 2008 年 9 月に発生した世界金融危機(「リーマンショック」)と類似している。もっとも、今次局面では、予備的動機の借入れ需要の増加を背景に銀行貸出は増加をみている。危機時の銀行貸出の急増に関しては、制度融資、就中、中小企業向け公的信用保証が大きな役割を果たしていることが多い。そこで、銀行貸出の動きについて、世界金融危機と今次局面を比較することで、東海地区・愛知県における特徴を明らかにするとともに、銀行貸出決定要因を計量的に分析し、公的信用保証が大きく寄与していることやその背景、問題点を明らかにすることを試みた。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

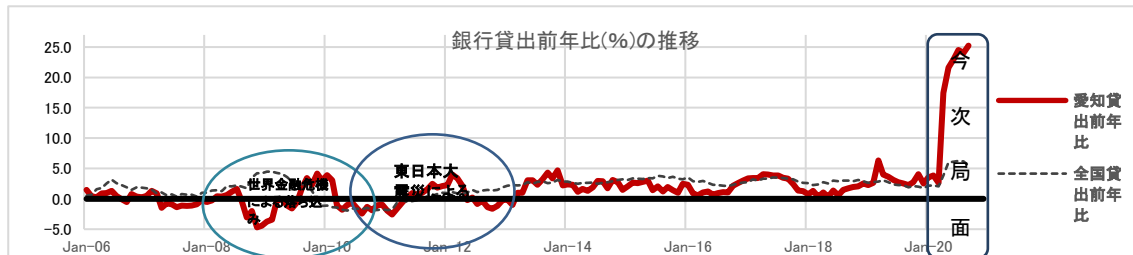
COVID-19 が発生してからあまり長い時間が経過していないこともあり、入手可能なデータ制約が限られる中、現在進行形の COVID-19 に関して、金融データ、マクロ経済データの幅広い収集に努めることにより、銀行貸出の変化に対してどういった要因が効いているか、愛知県における銀行融資にどういった特徴があるのかを数値的・計量的に明らかにした。

まず、可能な限りのマクロ経済データを収集、さらに当地信用保証協会の協力により可能な限り公表過去データを収集した。

そのうえで、銀行貸出の決定要因について計量分析を行った。内生性の問題をクリアするために、操作変数法による計量分析を行い、愛知県と全国について、今次新型コロナ・ショック時と世界金融危機(いわゆるリーマンショック)時とを比較分析し、特徴を明らかにした。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究における 5. で掲げた研究では、まず、計数・制度等の事実関係を中心に纏めることで今次局面における愛知県の貸出・信用保証の特徴を明らかにすることを企図して、COVID-19 と 2008 年の世界金融危機(いわゆるリーマンショック)時を比較する形で貸出・信用保証の計数面を確認するとともに、危機発生時における企業向け支援スキームのうち、信用保証に絞ってその実施枠組みの整理を行った。次に、こうした対応を行ったことにより発生する問題点を整理した。



さらに、愛知県と全国に分けて、今次局面(COVID-19)と世界金融危機(いわゆるリーマンショック)時について、銀行貸出を被説明変数とした計量分析を、操作変数法のうちの TSLS を使って実施することで、今次局面における当地(愛知県)の銀行貸出の大きな伸びに対して、公的信用保証が大きく寄与していることを明らかにした。

そのうえで、今次局面における信用保証等のスピーディな措置は、危機対応としては、資金制約の緩和等による倒産防止効果など相応のプラスの効果が窺われ、社会的な安定に貢献した部分については評価できるものの、これらの対応が様々な形で今後に残す可能性も存在することを明らかにした。さらに、今後、仮にコロナ禍が再度大きく広がるような状況となっても、100%保証のスキームや補助金を活用しての利子補給等については、一定の制約を設け、抑制的に利用した方がよいことを、様々な根拠を示したうえで、主張した。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①信用保証	②銀行貸出	③COVID-19	④モラル・ハザード
⑤愛知県	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

【論文発表】

・植林茂[2021]「COVID-19 と信用保証 —愛知県における貸出への影響についてのリーマンショック時との比較—」『社会とマネジメント 第18巻』p.p.1-23、2021年3月(予定、入稿済み)

【研究発表】

・第22回放送大学大学院比較地域研究会「新型コロナ・ショックと信用保証 —愛知県における貸出への影響についてのリーマンショック時との比較—」Web形式、3月27日実施予定